

2025 年 3 月 21 日

The Emerging Markets Weekly

米国経済に関する先行き不透明感に揺れる

新興国市場:先週末 14 日のアジア時間の新興国通貨は相場材料を探る地合いとなり小幅な値動き。MYR と IDR が小幅上昇。欧米時間、一時ドルが上昇するも、資源高が支援材料に。BRL は前日比+1.0%、RUB も値を上げた。週初 17 日、中国の 1~2 月不動産関連指標が軟調に終わり、リスクオフムードは残るも、ドルの下落が追い風となった。KRW の上昇が目立った。海外時間、米 2 月小売売上高が市場予想を下回り、米利下げ期待が強まったこと、中国が景気支援策を検討していることなどが材料視され新興国通貨は概ね堅調な値動き。RUB が前日比+2.3%、BRL や ZAR も上昇。18 日のアジア時間は FOMC における情報発信が注目される中で、小幅な値動き。欧米時間も様子見ムードが強く、一部通貨を除き積極的な取引は控えられた。19 日のアジア時間は、インドネシア銀行 (BI、中央銀行) の金融政策会合の内容が IDR 売りに繋がり、2 週ぶりの安値を記録。欧米時間、FOMC では利下げは見送られたものの、先行きの景気不透明感とインフレ加速に対する警戒を強める内容に新興国通貨はやや売りが先行。東欧通貨や MXN が売られた。20 日のアジア時間は、米関税政策のインフレへの影響が一時的との見方からリスク心理が改善し、底堅い動き。一方で欧米時間は、欧州でのウクライナ支援計画が合意せず、米国ウクライナ間での原発所有権に関する報道も重しになり、広範に売られた。

アジア:19 日、BI は金融政策会合を実施し、政策金利を従来の 5.75% に据え置いた。BI は国内政治や世界経済に関するリスクが残る中で、IDR の動向をはじめ国内金融市場の安定性を維持することに注力していく方針を示した。20 日、中国人民銀行 (PBoC) は 1 年物貸出プライムレートをはじめ主要金利の据え置きを決定。全人代では緩和的な金融政策の継続が示唆されたが利下げは見送られた。台湾中央銀行 (CBC) は 20 日、政策金利を従来の 2.00% に据え置いた。米国の関税政策や外需部門の不透明性から 25 年の経済成長予想を下方修正したが、国内のインフレ懸念にも配慮した決定となった。

中東欧・アフリカ:20 日、南アフリカ準備銀行 (SARB、中央銀行) 政策金利のレポ金利を 7.50% に据え置いた。前回会合まで 3 会合連続で利下げを決定していたが、米政権の関税措置や、予算を巡るこう着状況など不確定要素が混在する中で利下げを一時停止した。同日、トルコ中央銀行 (CBT) は翌日物貸出金利を +200bp 引き上げた。エルドアン大統領の政敵とされるイマモール・イスタンブール市長の拘束を受け、政情不安が拡大し、金融市場が荒れたことに対する対応。一連の騒動で TRY は史上最安値を更新している。

ラテンアメリカ:19 日、ブラジル中央銀行 (BCB) は金融政策委員会 (Copom) を開催し、政策金利 (翌日物金利、Selic) を従来の 13.25% から +100bp 引き上げ、14.25% とした。+100bp の利上げは 3 会合連続で、評決は全会一致であったが、先行きの利上げペースを緩めることが示唆された。

金融市場部
シニアマーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

マーケット・エコノミスト
長谷川 久悟
03-3242-7065
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜
03-3242-7065
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

欧州資金部
シニア為替ストラテジスト
中島 将行
masayuki.nakajima@mizuhoemea.com

市場概観(ブラジル)

利上げペース鈍化を示唆した BCB

金融市場部
マーケット・エコノミスト
長谷川 久悟
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

ブラジル中央銀行(BCB)は3月19日、金融政策委員会(Copom)を開催し、政策金利(翌日物金利、Selic)を従来の13.25%から+100bp引き上げ、14.25%とした(図表1)。+100bpの利上げは3会合連続で、評決は全会一致であった。前回1月会合の声明文は、「次回会合で”同程度の調整”が行われると予想している」としていたので、予定通りの決定と言って差し支えない。

最新の域内物価動向に関し、3月12日公表の2月のインフレ率(IPCA)は、+5.06%(前年比、以下同様)と市場予想に一致したものの、1月の+4.56%から伸びが加速した(図表2)。引き続き、本年のインフレ目標である+3.0%(±1.5%)を上振れて推移している。1月からの反発は、電気料金の一時的な値下げの影響が剥落したことに伴う動きであって、割り引いて考える必要もあろう。ただし、エネルギー・食品・飲料を除いた指数は筆者試算で+4.08%と1月からほとんど横ばいで推移しており、基調的物価の鈍化は遅れていると判断すべきである。インフレ警戒を解ける段階にはない。

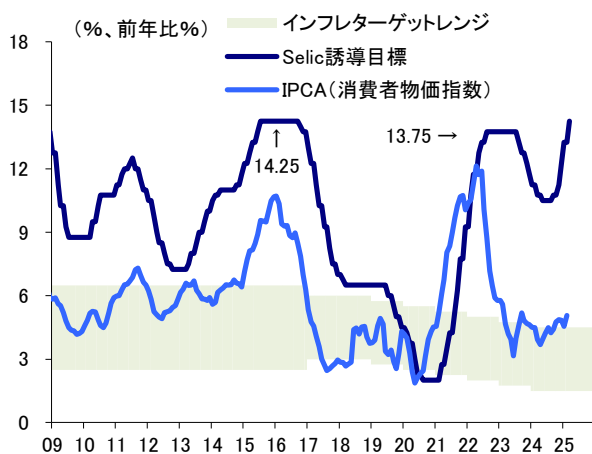
かかる中、先々のインフレ見通しは、前回会合以降緩やかに上昇傾向にある。BCBの市場サーベイ(3月14日集計)によれば、市場参加者のIPCA見通しは、2025年で同+5.66%、2026年で同+4.48%だ(図表3)。前回会合時点の調査より、それぞれ+0.16%ポイント、+0.26%ポイント上方修正された。なおBCBは、2025年のインフレ見通しを+5.1%とし、前回会合から▲0.1%ポイント下方修正した。インフレ見通しのリスクバランスに関する文言に関しては、前回会合同様「上方に傾いている」と言及された。上振れリスクの詳細に関しては、一言一句前回会合から据え置かれている。具体的には、インフレ期待の乖離長期化、需給ギャップのタイト化とサービスインフレの底堅い推移、通貨安を提示している。

こうした中、上述のBCBサーベイでは、年末の政策金利見通しに関し、2025年で15.00%、2026年で12.50%となっている(図表4)。前回会合時点の調査結果から変わっていない。市場は、更なる利上げ、および高金利路線の長期化を既に織り込んでいる。以上、BCBは予告通り+100bp利上げを実施した。そのうえで、今後の金融政策決定に関しては、「シナリオが予想通りに進展した場合、次回会合で調整幅を縮小することを予想する」と述べた。即ち、5月会合での利上げ幅縮小が示唆されたと解釈できよう。

声明文での記載も踏まえれば、次回5月会合では利上げ幅の縮小が選択されることはほぼ確実だろう。5月会合以降は利上げペースを減速させつつ、政策金利は15.25%程度でターミナルレートを迎えると想定したい。ただし、この水準は、インフレ期待のデアンカリングや需給ギャップのタイト化を加味しても、明らかに「引き締め過ぎ」だ。政策金利から1年先の期待インフレ率を差し引いた短期実質政策金利は、3月会合終了時点で+9.00%であり、BCBが想定する中立金利である+5.00%を大幅に上回っている。そして、各種の基礎的経済指標を確認する限り、2024年10~12月期から足許にかけては、内需の失速も確認されている(図表5)。実際、今回会合の声明文では、「成長の初期減速を示唆するシグナルが観測されている」とやや弱気な記載が追加されている。かかる状況下で過度な引き締め状態を維持することは難しく、2025年10~12月期以降、逆に利下げに動くと考えている。

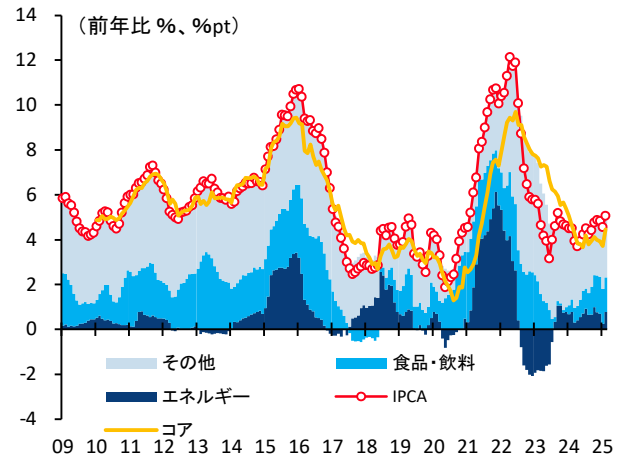
3月に入ってから Copom にかけての BRL は、上昇が目立つ(図表 6)。ドル全面安に伴う値動きで太宗が説明できそうだが、域内財政状態の改善や商品市況の好調推移も BRL 高に寄与しているだろう。年央にかけての BRL は、売り戻しに警戒したい。BCB の利上げサイクルも終わりに近づく中、金利の先高観を見込んだ BRL 買いは続かないとみる。IMM 通貨先物ポジションを見る限り投機の BRL 買いも相応に積み上がっており、今後は逆進に警戒すべきと考えている。加えて、足許では域内財政にかかる懸念はそれほど材料視されていないが、ルラ大統領の支持率低下が鮮明になっている。加えて、来年に大統領選挙を踏まえている現状も踏まえれば、再び財政悪化懸念が BRL の重しになる可能性にも警戒したい。ちょうど 20 日にはブラジル議会が 2025 年予算を承認しており、基礎的財政収支の見通しは+150 億 BRL の黒字と設定されている。ただし、過去何度もあったことだが、こういった事前の予測は往々にして甘いことは頭に入れておきたい。

図表 1: 政策金利とインフレ率(IPCA)



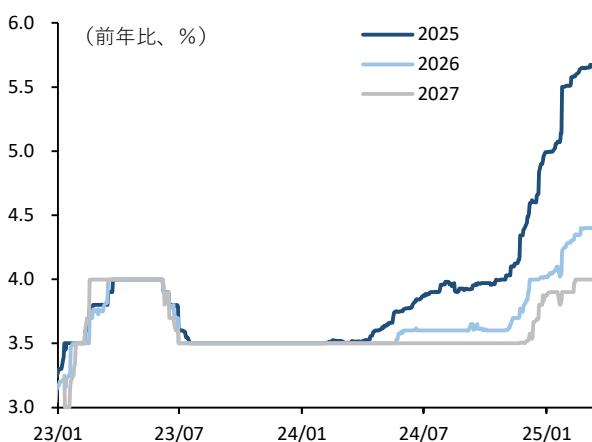
出所: ブラジル中央銀行、ブラジル地理統計院、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: インフレ率(IPCA)の品目別寄与度



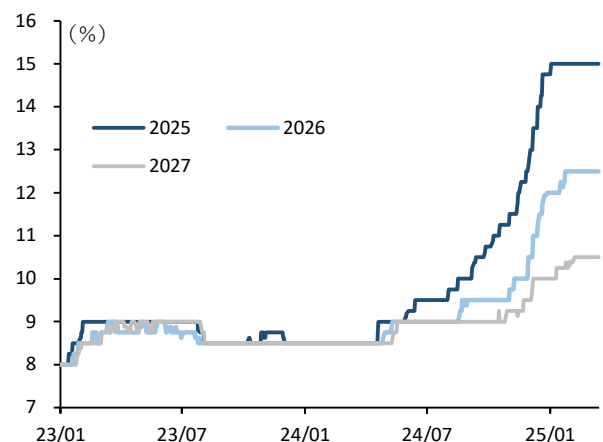
(注)エネルギーは国内燃料と自動車用燃料の合計
出所: ブラジル地理統計院、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 3: BCB 市場サーベイ(年間 IPCA 見通し、中央値)



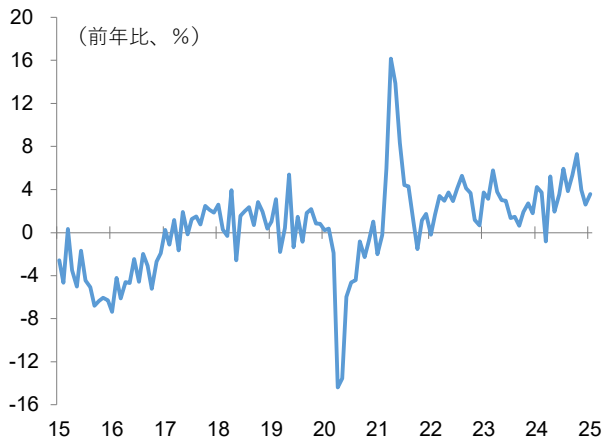
(注)2025年3月14日時点
出所: ブラジル中央銀行、Macrobond、みずほ銀行

図表 4: BCB 市場サーベイ(年末の政策金利見通し、中央値)



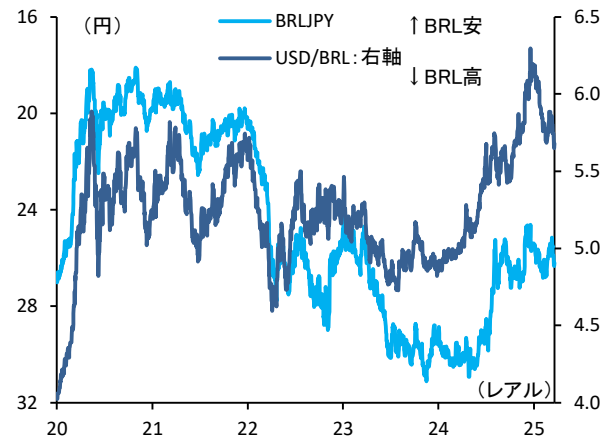
(注)2025年3月14日時点
出所: ブラジル中央銀行、Macrobond、みずほ銀行

図表 5: ブラジルの経済活動指数(月次 GDP)



出所: Macrobond、みずほ銀行

図表 6: BRL スポットレート(日足)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

市場概観(中国)

春節後の主要経済指標について

金融市場部
シニアマーケット・エコノミスト
堀 堯大
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

本欄では春節以降の主要な中国経済指標の結果を振り返ることとする。今月上旬には中国の最重要政治会議である全国人民代表大会(全人代)が開催されており、その詳細については3月12日付通貨ニュース「中国:全人代を終えて～国内景気回復のための課題は？」をご確認頂きたい。

外需部門の停滞懸念が強まる

中国政府は実質 GDP 成長率目標を 23、24 年と同様、前年比+5.0%前後に据え置いたが、24 年の目標達成については年央以降の外需部門の伸びが影響したと見られ、この勢いが今後も継続するのかが 1 つの鍵となる。かかる中、1～2 月の貿易収支が公表されているが、結果は+1705 億ドルの黒字となった。輸出については 5399 億ドルと前年比+2.3%増加したが(図表 1)、24 年の下半期が+7.9%(前年同期比、以下同様)であったこと踏まえると、少々勢いが弱まりつつあると読める。既報の通り、米中間では関税競争が勃発しており、今月も米中双方が追加関税を強化することを決定した。1～2 月対米輸出については、前年比+2.9%であったが、これも 24 年下半期の+7.7%から大きく劣後する結果になっている。24 年下半期の米国向け輸出の伸びはトランプ米政権の誕生を見越した動きであると考えられる以上、来月以降もその反動が生じる懸念が強まる。一方で、足許の高水準な貿易黒字計上の裏で輸入が萎んでいるという点も無視できない。1～2 月輸入は同▲8.4%と大きく減速しており、冴えない内需の動向を映し出す結果になっている。経常収支全体で見ても経常黒字の根幹が貿易黒字である以上、米中間で貿易摩擦が激化することや世界的な保護貿易の潮流が強まることで、貿易黒字が縮小して、その結果人民元の需給環境が悪化する可能性は高まっている状況だ(図表 2)。

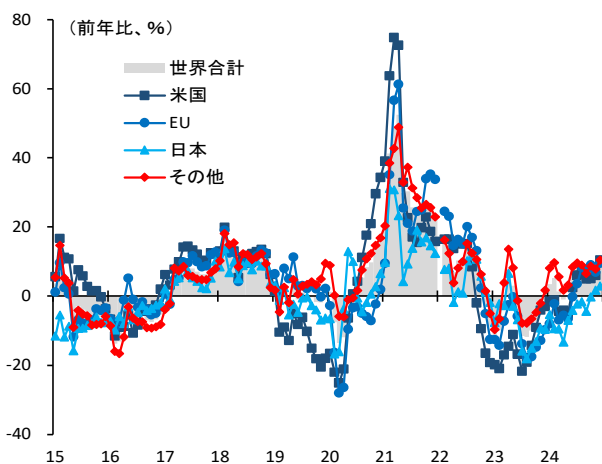
政府はインフレ目標を下方修正も達成には高いハードル

米国との貿易摩擦の深刻化を見越して、全人代では積極的な財政出動などを通じて内需を押し上げていくことを重点戦略として掲げている。一方で、25 年の物価目標は前年比+2.0%前後に設定しており、24 年の同+3.0%前後から▲1.0%ポイント下方修正された。しかしながら下方修正された目標と比較しても足許のインフレは下振れが続いているのが実情であり、直近 2 月消費者物価指数(CPI)は前年比▲0.7%、食品とエネルギーを除くコアベースも同▲0.1%とマイナス圏に沈んだ(図表 3)。肉類や野菜類の値下がりが目立ったこと、昨年と春節期間が異なったことによる一過性要因も重なったが総合ベースは約 1 年ぶりに、コアベースは 4 年ぶりにマイナスを記録したことを踏まえれば民間消費停滞も大きく影響しているとみなすべきだ。内需の刺激については、昨年も耐久財の買い替え支援が実施されたが、今年もこうした施策が行われるものと考えられる。なお、かかる政策への期待感から 1～2 月の小売売上高は前年比+4.0%と堅調な滑り出しとなっている。また、金融政策面でも預金準備率の引き下げや政策金利の見直しなど緩和的な金融環境を維持していく方針だ。本稿作成時点では中国人民銀行(PBoC)から特筆すべき情報発信は見られないものの、外部環境の変化によって景気の先行きの不透明感が高まる際には、PBoC が追加緩和を検討することも視野に入る。

3月のCNY相場について

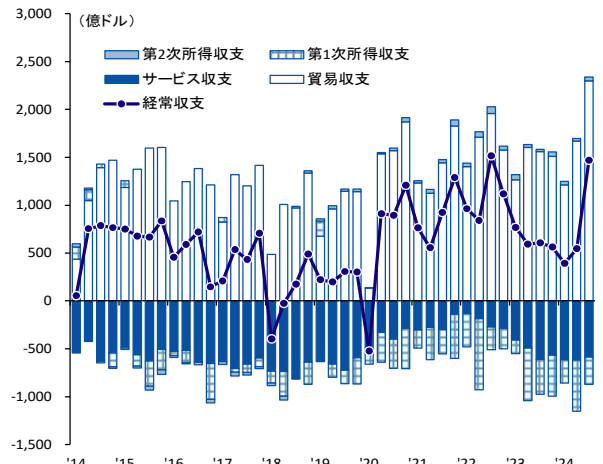
対ドルでのCNY相場は、短期的な米中貿易摩擦に関するヘッドラインを受けて荒い値動きが散見されるものの、基調としては持ち直しの動きが見られる(図表4)。もっとも、CNYが積極的に買われたというよりも、米国経済の先行き不透明に起因したドル売りが強く影響したと考えるのが妥当であろう。実際に両国の金利差も米金利低下によって縮小していることが確認できる。こうした状況を受けて、為替見通し上では米国経済の先行きやFRBの金融政策動向が重要となる。FOMC後の記者会見でパウエルFRB議長は先行きの経済・物価見通しに関する不透明感が急速に高まっていると述べて、FRBは利下げを見送った。今回更新された米国の経済・物価見通しでは、経済成長については下方修正、物価については上方修正されている。本欄では関税競争に勝者はなく、米関税政策の強化は外需の減速や輸入物価上昇といった経路で米国経済にも波及すると推測してきたが、その確度が高まっているようにも映る。一方で、米景気後退を予想する声は強まるものの、FRBは拙速な利下げに対しては距離を置く指針を示している。減税政策や関税政策に象徴されるように、トランプ政権の政策がインフレ誘発的であることを見込んでの対応であろう。こうした中で、インフレの脅威が去らない場合においてはFRBの政策転換が議論される可能性は限定的と考える。先述の通り、PBoCは当面金融緩和の姿勢を維持していることから対米金利差は今後も継続的に縮小していくことは考えにくい。足許の相場が正しくそうであるように、米中貿易摩擦のヘッドラインに一喜一憂しながら方向感の出ない相場は来月も続きそうである。

図表1: 国・地域別の輸出実績



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行 注:後方3か月移動平均

図表2: 経常収支の動向



出所:CEIC、みずほ銀行

図表 3: 消費者物価指数(CPI)の動向



出所: Macrobond、みずほ銀行

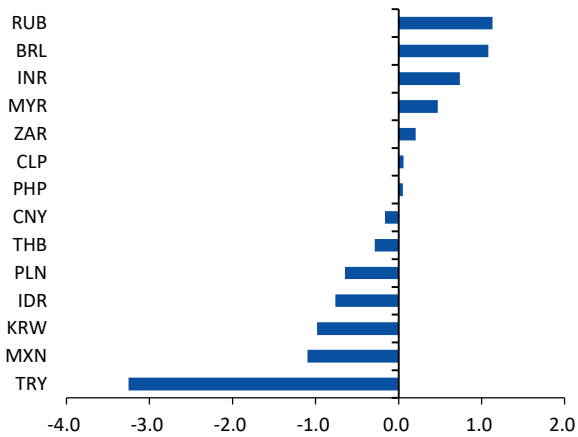
図表 4: CNY 相場と対米金利差(2年金利)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

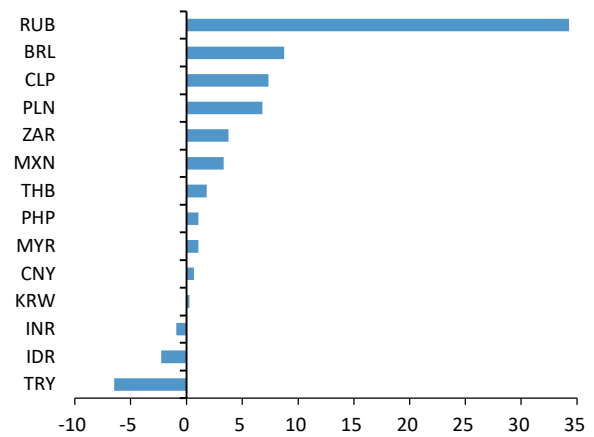
資産別騰落率

為替週間騰落率(対ドル、%)



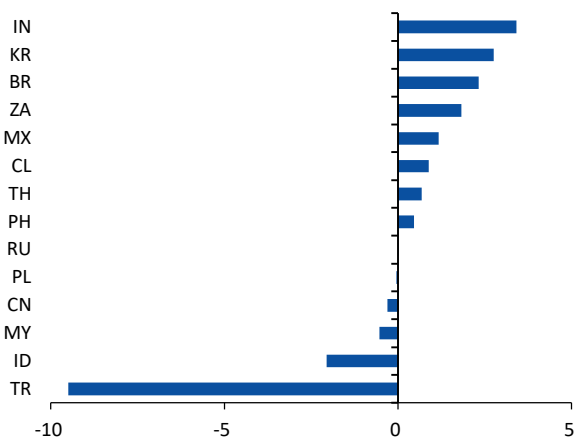
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替年初来騰落率(対ドル、%)



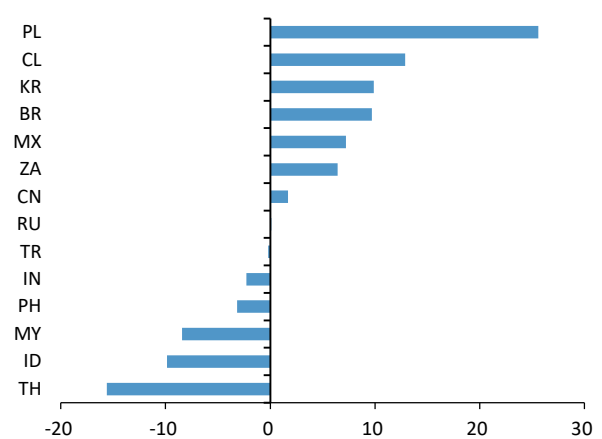
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株価週間騰落率(%)



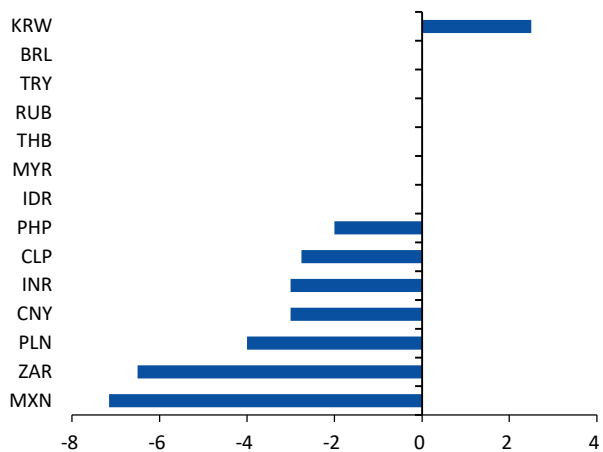
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株価年初来騰落率(%)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

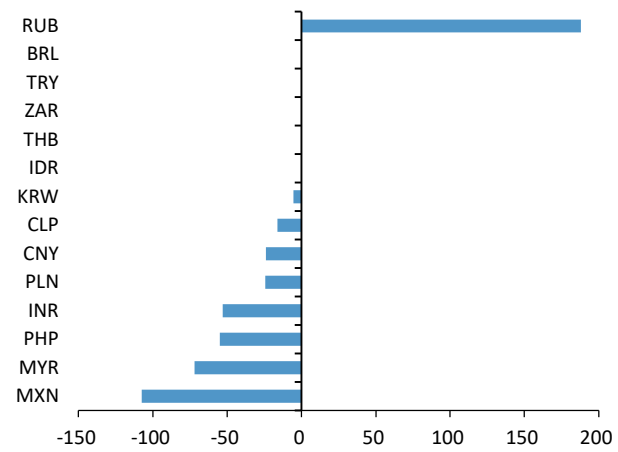
5年物スワップレート週間変化(bp)



注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

5年物スワップレート年初来変化(bp)

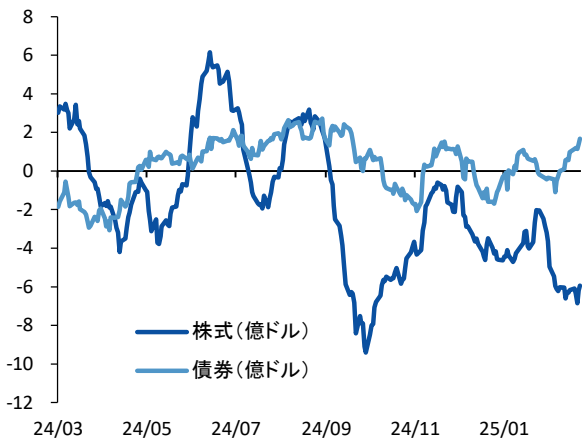


注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

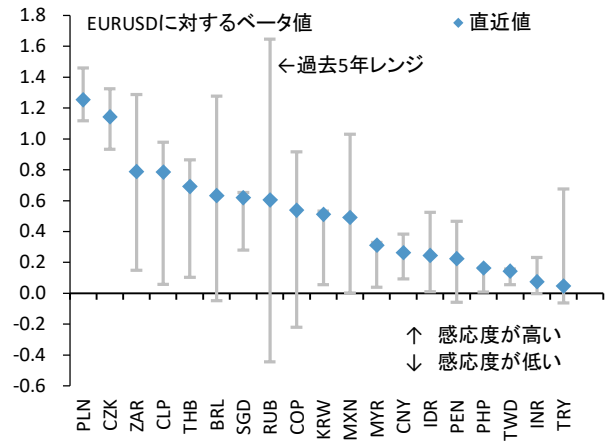
チャート集

主要新興国への証券投資(4週間移動平均)



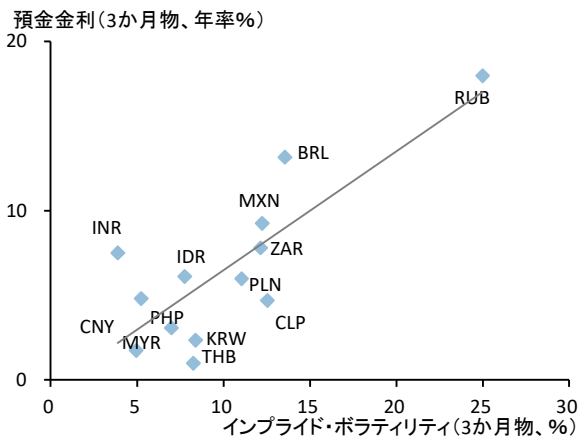
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

EM通貨(対ドル)のEURUSDに対する感応度(過去12か月)



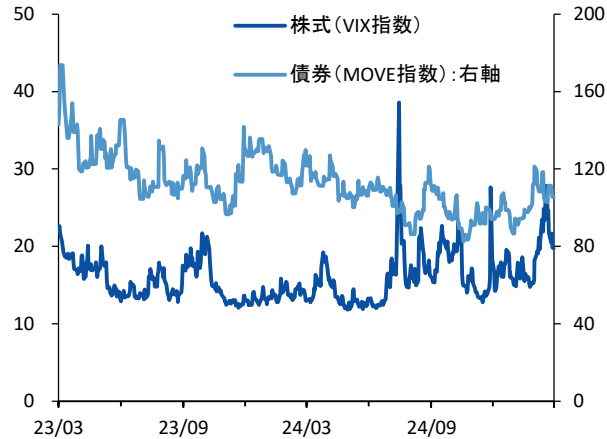
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国の預金金利と為替ボラティリティ



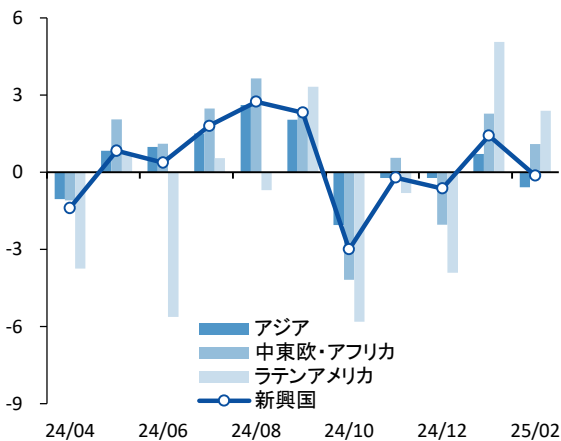
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

株式と債券のボラティリティ(VIX指数、MOVE指数)



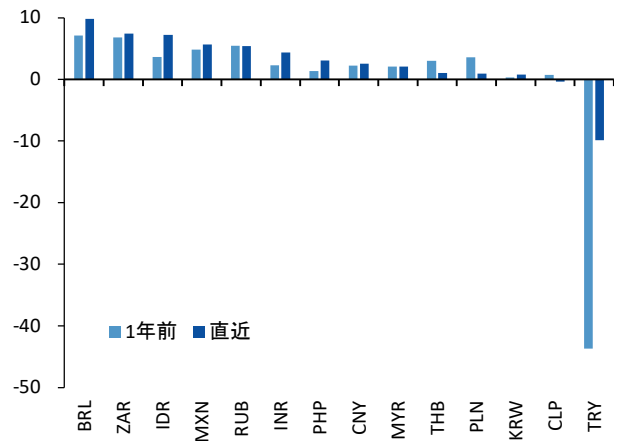
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国現地通貨建て国債月次パフォーマンス(%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

実質金利(10年物国債金利 - 消費者物価上昇率、%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
17日 (月)	シンガポール	非石油地場輸出(前年比)	9.7%	7.6%	-2.1%	--
17日 (月)	中国	鉱工業生産(年初来/前年比)	5.3%	5.9%	--	--
17日 (月)	中国	小売売上高(年初来/前年比)	3.8%	4.0%	--	--
17日 (月)	中国	固定資産投資(除農村部/年初来/前年比)	3.2%	4.1%	--	--
17日 (月)	フィリピン	Overseas Cash Remittances YoY	2.9%	2.9%	3.0%	--
17日 (月)	インドネシア	貿易収支	\$2400m	\$3117m	\$3450m	\$3492m
17日 (月)	インド	輸入(前年比)	--	-16.3%	10.3%	--
17日 (月)	インド	輸出(前年比)	--	-10.9%	-2.4%	--
18日 (火)	フィリピン	財政収支(フィリピンペソ)	--	68.4b	-329.5b	--
19日 (水)	インドネシア	BI-Rate	5.75%	5.75%	5.75%	--
19日 (水)	フィリピン	総合国際収支	--	\$3086m	-\$4078m	--
20日 (木)	中国	1年貸出プライムレート	3.10%	3.10%	3.10%	--
20日 (木)	中国	5年貸出プライムレート	3.60%	3.60%	3.60%	--
20日 (木)	マレーシア	輸出(前年比)	6.5%	6.2%	0.3%	--
20日 (木)	台湾	輸出受注(前年比)	24.3%	31.1%	-3.0%	--
20日 (木)	台湾	CBC指標金利	2.00%	2.00%	2.00%	--
21日 (金)	韓国	PPI 前年比	--	1.5%	1.7%	1.80%
21日 (金)	マレーシア	CPI(前年比)	1.5%	--	1.7%	--
21-26日	タイ	貿易収支(通関ベース)	\$231m	--	-\$1880m	--
24日 (月)	シンガポール	CPI(前年比)	1.1%	--	1.2%	--
24日 (月)	台湾	失業率	--	--	3.4%	--
25日 (火)	台湾	鉱工業生産(前年比)	--	--	5.1%	--
26日 (水)	シンガポール	鉱工業生産(前年比)	8.3%	--	9.1%	--
28日 (金)	フィリピン	貿易収支	--	--	-\$5089m	--
中東欧・アフリカ						
19日 (水)	南ア	CPI(前年比)	3.4%	3.2%	3.2%	--
19日 (水)	南ア	小売売上高(実質値、前年比)	3.9%	7.0%	3.1%	3.20%
20日 (木)	ロシア	PPI 前年比	--	9.8%	9.7%	--
20日 (木)	南ア	SARB政策金利発表	7.50%	7.50%	7.50%	--
21日 (金)	トルコ	外国人観光客(前年比)	--	--	6.1%	--
21日 (金)	ロシア	主要金利	21.0%	--	21.0%	--
25日 (火)	トルコ	設備稼働率	--	--	74.5%	--
27日 (木)	ロシア	鉱工業生産(前年比)	--	--	2.2%	--
27日 (木)	南ア	PPI 前年比	1.3%	--	1.1%	--
28日 (金)	トルコ	貿易収支(ランド)	--	--	-7.54b	--
ラテンアメリカ						
17日 (月)	ブラジル	経済活動(前年比)	2.4%	3.6%	2.4%	2.6%
19日 (水)	ブラジル	SELICレート	14.25%	14.25%	13.25%	--
24日 (月)	メキシコ	消費者物価指数(隔週)	0.07%	--	0.14%	--
24日 (月)	メキシコ	経済活動IGAE(前年比)	0.0%	--	-0.4%	--
25日 (火)	メキシコ	小売売上高(前年比)	--	--	-0.2%	--
26日 (水)	ブラジル	経常収支	--	--	-\$8655m	--
27日 (木)	ブラジル	IBGEインフレ率IPCA-15(前年比)	--	--	5.0%	--
27日 (木)	メキシコ	貿易収支	--	--	-4558.0m	--
27日 (木)	メキシコ	オーバーナイトレート	9.0%	--	9.50%	--
28日 (金)	メキシコ	失業率(季調前)	--	--	2.7%	--

注: 2025年3月21日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替相場見通し

	2025年 1~2月(実績)	SPOT	2025年 3月	6月	9月	12月	2026年 3月
対ドル							
エマージングアジア							
中国人民元 (CNY)	7.2288 ~ 7.3328	7.2494	7.32	7.38	7.23	7.12	7.12
香港ドル (HKD)	7.7682 ~ 7.7955	7.7727	7.76	7.76	7.75	7.76	7.77
インドルピー (INR)	85.653 ~ 87.950	86.373	87.1	87.8	86.5	86.0	86.0
インドネシアルピア (IDR)	16130 ~ 16598	16485	16400	16450	15800	15400	15230
韓国ウォン (KRW)	1424.05 ~ 1477.46	1468.30	1470	1460	1450	1420	1400
マレーシアリング (MYR)	4.3675 ~ 4.5185	4.4243	4.47	4.53	4.30	4.12	4.14
フィリピンペソ (PHP)	57.783 ~ 58.715	57.210	58.8	59.6	57.2	56.5	56.3
シンガポールドル (SGD)	1.3312 ~ 1.3751	1.3352	1.36	1.37	1.34	1.32	1.32
台湾ドル (TWD)	32.602 ~ 33.227	33.011	33.0	32.8	32.5	32.3	32.3
タイバーツ (THB)	33.37 ~ 34.84	33.73	34.8	35.2	34.3	33.6	33.3
ベトナムドン (VND)	25038 ~ 25594	25556	25550	25750	25100	24700	24680
中東欧・アフリカ							
ロシアルーブル (RUB)	85.2034 ~ 114.7788	84.5409	85.0	80.0	84.0	88.0	92.0
南アフリカランド (ZAR)	18.2981 ~ 19.2296	18.1494	18.4	18.2	18.0	17.8	17.6
トルコリラ (TRY)	35.2419 ~ 36.7157	37.9837	37.0	38.0	39.0	40.0	41.0
ラテンアメリカ							
ブラジルリアル (BRL)	5.6757 ~ 6.2270	5.6801	5.95	5.90	5.90	5.95	6.05
メキシコペソ (MXN)	20.1343 ~ 21.2932	20.1437	20.7	21.0	20.6	20.4	20.2
対円							
エマージングアジア							
中国人民元 (CNY)	20.457 ~ 21.666	20.527	20.77	20.19	20.89	21.63	21.91
香港ドル (HKD)	19.112 ~ 20.403	19.139	19.59	19.20	19.48	19.85	20.08
インドルピー (INR)	1.706 ~ 1.848	1.722	1.75	1.70	1.75	1.79	1.81
インドネシアルピア (100IDR)	0.900 ~ 0.981	0.902	0.927	0.906	0.956	1.000	1.024
韓国ウォン (100KRW)	10.214 ~ 10.916	10.132	10.34	10.21	10.41	10.85	11.14
マレーシアリング (MYR)	33.368 ~ 35.699	33.614	34.00	32.89	35.12	37.38	37.68
フィリピンペソ (PHP)	2.570 ~ 2.726	2.597	2.59	2.50	2.64	2.73	2.77
シンガポールドル (SGD)	110.57 ~ 116.09	111.41	111.52	108.68	113.11	116.84	118.09
台湾ドル (TWD)	4.531 ~ 4.843	4.510	4.61	4.54	4.65	4.77	4.83
タイバーツ (THB)	4.380 ~ 4.653	4.410	4.37	4.23	4.40	4.58	4.68
ベトナムドン (100VND)	0.5824 ~ 0.6253	0.5821	0.59	0.58	0.60	0.62	0.63
中東欧・アフリカ							
ロシアルーブル (RUB)	1.370 ~ 1.754	1.760	1.79	1.86	1.80	1.75	1.70
南アフリカランド (ZAR)	8.034 ~ 8.525	8.195	8.26	8.19	8.39	8.65	8.86
トルコリラ (TRY)	4.069 ~ 4.481	3.910	4.11	3.92	3.87	3.85	3.80
ラテンアメリカ							
ブラジルリアル (BRL)	25.209 ~ 26.888	26.209	25.55	25.25	25.59	25.88	25.79
メキシコペソ (MXN)	7.253 ~ 7.790	7.387	7.34	7.10	7.33	7.55	7.72

注: 1. 実績の欄は2025年2月28日まで。SPOTは3月21日の7時5分頃。

2. 実績値はブルームバーグの値。

3. 予想の欄は四半期末の予想。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。